

高島屋、純利益44%減

3～5月 訪日客向け伸び鈍化



円高進行も影響

高島屋が24日発表した2016年3～5月期の連結決算は、純利益が前年同期比44%減の35億円だった。円高や中国の関税強化で訪日外国人(インバウンド)による消費の伸びが鈍化した。前年同期に計上した持ち合い株の売却益がなくなったことも減益要因になった。

訪日外国人向けの免税売上高は15年末ごろから伸びの鈍化が鮮明になり、5月は前年同月比5%増にとどまった。中国政府が海外から持ち込む個人輸入商品の関税を引

き上げ、転売目的の購買が減った。

インバウンド消費は「中身が変わってきている」(村田善郎常務)。高級ブランド品の3～5月期の免税売上高は前年

同期比11%減ったが、化粧品は好調で2・6倍に増えたほか、子供服や食料品も伸びた。消費の中心が高額品から中価格帯の商品に移り、客単価は下落基調にある。

営業利益は3%増の76億円だった。食料品の販売は好調で、日本橋店(東京・中央)や大阪店(大

阪市)など都市部の店舗

で売り上げが伸びた。テレビ番組「笑点」と提携した企画も集客増につながった。賃料収入が増えたため、不動産開発子会社の利益も伸びた。採用抑制と販促費の見直しで費用を減らした。

海外はシンガポール高島屋が現地通貨建てで増収だったが、円高進行により、円ベースでは減収だった。売上高にあたる営業収益はほぼ横ばいの2193億円だった。

17年2月期の連結業績予想は据え置いた。営業

高額品の販売は低迷している

(東京都中央区の高島屋日本橋店)



収益は3%増の9530億円、純利益は1%増の240億円を見込む。英

国の欧州連合(EU)離脱や円高・株安で消費環境は厳しいが、インバウ

ンドの取り込みと経費削減で計画達成につなげる」(村田常務)という。